

(様式第3号)

平成21年度調査研究中間報告書

調査研究課題	薬剤耐性 HIV の発生動向把握のための検査方法・調査体制確立に関する研究 - 首都圏近県における薬剤耐性 HIV の発生動向 -
計画期間	平成16年度～21年度 6年間
調査研究計画	<p>エイズウイルス感染症の標準的な治療法として多剤併用療法が定着し、病状の進行を遅らせることが出来るようになった。しかし、変異株の出現が治療を進めていくうえで深刻な問題となっている。東京や大阪などの大都市では新規感染者から薬剤耐性 HIV が高い割合で検出されており、周辺地域や地方への拡散が懸念されている。</p> <p>よって、首都圏近県における薬剤耐性 HIV の調査体制を確立し、その侵入を監視する。</p>
進捗状況	<ol style="list-style-type: none">1 県内のエイズ拠点病院及び近隣の地方衛生研究所の参加を呼びかけ、調査体制の充実を図った。2 研究協力機関からの未治療検体について、薬剤耐性 HIV の検出を試みるとともに、HIV の遺伝子亜型を調べた。
これまでの成果の概要	<ol style="list-style-type: none">1 研究協力機関に新たに筑波大学附属病院と埼玉県衛生研究所が加わった。(研究協力機関 茨城県内の拠点病院2, 地方衛生研究所5)2 茨城県, 栃木県, 埼玉県, 山梨県及び長野県における HIV / AIDS の報告数は2,082人(2008.9.28までの報告数を集計)で、全国の13.9%を占めている。3 平成19年度及び20年度にそれぞれ16検体, 25検体, 合計41検体について解析を行った結果, minor mutation 又は polymorphism と考えられる変異は検出されたが, 薬剤耐性に関する変異は認められなかった。4 HIV / AIDS 報告数に対し保健所で確認された HIV 陽性者数(感染者等の捕捉率)は, 約20%と低かった。よって, 今回の調査結果からだけでは, 当地域に薬剤耐性 HIV が侵入している可能性を否定することはできないと考えられる。5 HIV の遺伝子亜型の頻度は CRF01_AE に比べて B 型が高くなり, 全国的な状況に近づいてきた。
今後の計画・課題対応方法	新規 HIV/AIDS 診断症例等における薬剤耐性 HIV の検出頻度は, 全国調査開始時(2003年)は4.9%であったが, 2008年には8.1%に上昇している。当地域でも, HIV 感染者等の捕捉率を高めてより正確な実態を把握するため, 拠点病院との連携を推進する必要がある。